

令和 5 年度 埼玉県東部地域保健医療協議会
東部（南）保健医療圏 在宅医療部会 事業報告

【在宅医療部会の開催】

1 日 時

令和 6 年 1 月 23 日（火） 19:00～20:30

2 会 場

草加保健所 多目的室

3 出席者

委員 16 名（18 名中 2 名が欠席）

県・医療整備課 在宅医療推進担当職員 3 名

4 議 事

- (1) 埼玉県における在宅医療の現状及び第 8 次埼玉県地域保健医療計画案
（在宅医療の推進）について

（埼玉県 保健医療部 医療整備課 在宅医療推進担当職員から説明）

- (2) 各市管内における在宅医療・介護連携に係る現状と課題に関する報告
〈報 告〉

- ① 三浦部会員（草加市 長寿支援課長）
- ② 布施部会員（八潮市 長寿介護課 主幹）
- ③ 茂木部会員（三郷市 長寿いきがい課長）
- ④ 山口部会員（吉川市 長寿支援課長）

〈意見交換・質疑応答〉（主な意見）

- 在宅医療の現場では、「MCS（メディカル・ケア・ステーション）」を使った多職種連携の取組が進んでおり、在宅医療の推進にとって有効な手段と考えられる。
- 在宅医療の推進には、利益追求型ではなく、真摯に取り組む姿勢のある医師や医療機関が増えること及び地域住民の理解が深まることが重要。
- 在宅医療を進めるためには、在宅での介護を担う介護職の報酬を引き上げ、その人たちの生活が安定するような方策を検討していく必要がある。
- 在宅では、食の問題も重要であり、歯科医師による訪問診療をはじめ、多職種連携による口腔ケア、口腔機能訓練及び食事指導等も重要な要素である。
- 病診連携、医介連携を進めるために、それぞれの職種や立場の違いによる認識の相違を調整して、上手くつなげる役割を担う部門が必要。